# 社会福祉法人による地域における公益的な取組事例集

VOL.2

岡山ささえ愛センター

（岡山県地域公益活動推進センター）

# CONTENTS

はじめに ……1

事例❶ 職員の声を形に（ことぶき会）……2

事例❷ 地域とともに、これからも（純晴会）……4

事例❸ 人と人をつなげる場（さいさい子ども食堂）……6

事例❹ 一歩ずつ支援を（まにわささえ愛ネット）……8

事例❺ 就労支援が人材確保と地域支援に（特別養護老人ホーム蛍流荘）……10

事例❻ 子どもたちの居場所（美作市社会福祉協議会）……12

市域の社会福祉法人ネットワークの紹介 ……14

岡山ささえ愛センターについて ……16

# はじめに

少子高齢化や人口減少が進み、地域や家庭の支え合いの基盤が弱まっているなか、地域住民や地域の多様な主体が参画し、世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく「地域共生社会」の実現が、これからの社会福祉の基本理念として掲げられています。

社会福祉法人は、これまでも社会福祉法人の本来の使命に基づき、地域の様々な課題と向き合い、その解決のために力を尽くしてきました。今日では、「地域における公益的な取組」として、県内でも地域共生社会の実現に向けた実践が広がっているところです。

本事例集は、各法人が地域のために何ができるのかを考え、試行錯誤しながら取り組まれている実践事例を紹介するために、岡山県社会福祉協議会機関誌の取材としてお伺いした事例をまとめて作成したものです。

社会福祉法人の取組の姿を地域に示すとともに、社会福祉法人の実践の参考として活用いただき、県内の地域における公益的な取組の輪が広がっていくことを願っております。

最後になりましたが、業務ご多忙のなか、本会取材にご協力いただきました社会福祉施設・事業所等の各関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、今後の本県での「地域における公益的な取組」の展開促進へ向けたより一層のご理解ご協力について、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和2年3月

社会福祉法人　岡山県社会福祉協議会
岡山ささえ愛センター（岡山県地域公益活動推進センター）

取材時、
福祉有償運送に利用した車両

# 「職員の声を形に」
## ～福祉有償運送の取組から地域に必要とされる施設に～

**社会福祉法人　ことぶき会**
**特別養護老人ホーム宇甘川荘**

今号では、社会福祉法人ことぶき会　特別養護老人ホーム宇甘川荘（以下、宇甘川荘）が実施する福祉有償運送について、同施設　主任生活相談員の濱辰徳さんにお話を伺いました。

### 職員の声を形に

岡山市北区御津紙工に位置する宇甘川荘が実施している福祉有償運送は、要支援認定者、要介護認定者、障害認定を受けた方等を対象として、平成28年1月からスタートしました。きっかけは、地元の介護タクシーの撤退に伴い、それまでの利用者たちの交通手段が断たれたことを心配した職員たちの声でした。

施設周辺の地域では、路線バスの業務縮小・廃止、地域の過疎化、高齢者による免許の返納など様々な理由により、通院や入退院だけでなく、ちょっとした買い物などの移動に制約がある方も少なくありません。そこで、在宅で生活されていて、公共交通機関等を利用しにくい方々を心配した職員たちから「少しでも地域住民のためにサポートできないか」という声があがったのです。そのため、取組を始めるにあたって、職員からの不安や反対の声などはなく、むしろ前向きな職員ばかりでした。

今回お話を伺った濱主任生活相談員

### 福祉有償運送とは

福祉有償運送とは、要支援認定者、要介護認定者、障害認定を受けた方等が対象の、通院・入退院・買い物等の移動支援です。岡山市に居住されている方であれば利用可能で、原則毎日10時から16時まで（事前登録・

要予約）行っています。料金は30分1200円と通常タクシーの半額程度です。（車椅子・リクライニング車椅子・ストレッチャー貸出は別途料金がかかります。）主に、依頼は地域のケアマネジャーからいただきます。事前訪問などは基本的には行わないため、ケアマネジャーとの情報共有が重要となります。

## 取組を始めて

地域の方が少しでも過ごしやすくなるようにと始めたこの取組をきっかけに「困ったことがあればとりあえず「宇甘川荘」に相談すれば力になってもらえる」と、岡山市中心部の方からの問い合わせも増加しました。また、通院が困難なために、通院を諦めていた方から「透析治療を始めてみようと思う」という言葉を聞いたときは本当に始めてよかったと思いました。福祉有償運送の実施には様々な制約があります。例えば、発着地のいずれかが運送区域内であること、運転者は第二種運転免許を受けているか、福祉有償運送に必要な講習や研修を修了していることが挙げられます。このほかにも、運行管理の責任者の選任を行わなければならず、車両を増やすことで、より制約が増えてしまいます。

取組の様子

## 今後の課題

現在、宇甘川荘では、福祉有償運送の運転が可能な職員は5名であり、普段の業務の合間や都合をつけて実施しているため、時間外の希望や急な依頼にはなかなか対応できません。また、福祉有償運送はドア・ツー・ドアの個別輸送が原則であるため、介助のための付き添いの方の同乗はできますが、目的地が同じであっても利用者を複数人同時に乗せることはできません。今後、2名が研修修了予定ですが、時間外の希望や急な依頼、多人数へ対応するためには、福祉有償運送専任の職員を雇うなどを検討する必要があると考えています。移動介助もあるので、介護の知識もある程度ある方が望ましく、定年を迎えられた元気な方の雇用なども検討しています。

また、福祉有償運送にこだわる必要はないと思っており、曜日・時間を決めた乗合バスのようなものも検討しています。そのほかにも、福祉施設の使っていない車両の貸し出しなども考えられます。

中心部から離れた地域で生活されている方の中には、交通手段等に困っている方がまだ多くいると思います。こういう取組を地元の施設が率先して行うこと、地域も巻き込むことで、地域の方の信頼が得られ、地域に必要とされる施設になると考えています。今後も地域の方も巻き込みながら、緑豊かな自然に囲まれた、高齢者と職員の心ふれあう施設を目指していきます。

【問い合わせ先】
**社会福祉法人　ことぶき会**
**特別養護老人ホーム宇甘川荘**
岡山市北区御津紙工1410
TEL 086-726-0331

現場からの発信

オープンセレモニー時の様子。後ろの建物がうきうき館です。

# 「地域とともに、これからも」
## ～人と人、地域と施設がつながる新たな地域拠点～

### 社会福祉法人　純晴会
高齢者総合福祉施設　浮洲園

今号では、社会福祉法人純晴会　高齢者総合福祉施設浮洲園が粒江地区社会福祉協議会とともに開設し、運営協力をしている地域拠点「地域交流スペースうきうき館」について、同法人、在宅事業部長の日笠さんにお話を伺いました。

### 地域に根差した身近な拠点として

倉敷市粒江の「地域交流スペースうきうき館」（以下、うきうき館）は、地域の方が気軽に集い、様々な目的で使用することができる拠点として、平成29年4月に開館しました。身近な交流スペースとして、地域で活動する様々な団体の会合や認知症カフェ等の開催に利用されています。

### 地域の課題と法人の想いから

住民による地域活動が活発だった粒江学区では、町内会単位での拠点を中心とした様々な取組が行われていましたが、小学校区単位での横断的な活動に利用できる場所が少ないという課題がありました。一方で浮洲園には、法人として地域福祉を推進していくため、地域の「つながり」を大切にしたいという想いがあり、それぞれのニーズが合致したことが開設のきっかけになっています。

建物は借家を借り、スロープや手すりの設置等地域の方が利用しやすいような環境整備を法人で行いました。

また、うきうき館は浮洲園に程近い住宅地の中に位置しており、生活圏域の中に新たな拠点を設けるということで、開設に当たっては、近隣の地域住民の方々の理解を充分に得る必要がありました。その際にも地区社会福祉協議会やコミュニティ協議会の皆さまにご尽力いただきました。

### 利用者インタビュー！うきうき館の魅力とは？？

取材日、記念誌作成の打合せで利用されていた粒江学区コミュニティ協議会の皆さんからもお話をお聞きすることができました。

「身近なところに、多目的で利用できる場所が増え、とても役立っている」「利用に当たって特に申請等も必要なく、気軽に利用できるところが嬉しい」

といった声から、地域に根差した拠点として定着していることがうかがえました。また「ちょい悪おやじCLUB」（左頁写真参照）や「赤ちゃんサロン」等、ユニークな企画の創出にもつながっているとのことです。

## 地域との関係性を見つめ直すきっかけに

うきうき館の開設に携わる中で、これまでの法人の取り組みや地域との関係を改めて見つめ直すことができました。浮洲園では、法人設立当初から地域との共催による夏祭りや幼稚園・小学校との交流、施設入居者の安全パトロール参画等地域に根差した取組を行ってきましたが、これらは単なる行事ではなく、地域の一員として法人と地域との関係性を築くことに繋がっていたんだな、と。

こうした長年の積み重ねがなければ、ここまでスムーズな開設には至らなかったでしょうし、「新たな拠点をつくろう」という話にすらならなかったのでは、と思います。

うきうき館を利用されていた粒江学区コミュニティ協議会の皆さん。
地域のキーマンが集まられています。

## 課題と今後の展望について

うきうき館は、利用したい方がその都度鍵を開けて利用する、という方式になっており、利用が無い日は施錠されています。目的があれば簡単に利用できるのですが、「ふらっとお茶を飲みに」とか「ちょっと井戸端会議に」といった利用につながりにくい状態です。今後は関係者に負担の少ない形で、より気軽な利用を促進するための方法を検討していきたいです。

また、法人職員の関わりもまだ少ないので、関わりを増やす中で多様な企画に繋げていくことができれば、と考えています。

社会福祉法人の地域における公益的な取組が注目されている中で、ともすれば場所や仕組みを作ることが目的になってしまいがちです。でも、私たちは地域の一員として、粒江地区の人と人とのつながりを大切にしたいという変わらぬ目的を持っていて、それを達成する手段の一つが「うきうき館」なんだということを忘れずに、これからも地域に関わっていきたいと思っています。

在宅事業部長の日笠さんにお話を伺いました。

【問い合わせ先】
社会福祉法人　純晴会
高齢者総合福祉施設　浮洲園
倉敷市粒江2500-1
TEL　086-429-3311

# 「人と人とをつなげる場」
## ～さいさい子ども食堂～

「さいさい子ども食堂」

今号では、社会福祉法人岡山中央福祉会特別養護老人ホーム中野けんせいえんの地域交流スペースで実施する子ども食堂（さいさい子ども食堂）について、同食堂サポーターの竹永さんにお話を伺いました。

### さいさい子ども食堂とは

さいさい子ども食堂とは、岡山市東区西大寺中学校区にある社会福祉法人岡山中央福祉会特別養護老人ホーム中野けんせいえんの地域交流スペースで行われている子ども食堂です。主に地域の小・中学生を対象とした東区初の子ども食堂で、平成28年7月より毎月第2土曜日の10時～14時に開催しています。

子ども食堂の目的は、貧困、孤食の解消や居場所づくりですが、困っている子どもたちだけと限定したものではなく、近所の子どもたちや地域の方、親子連れでの参加も可能としています。特に予約する必要もなく、その日行きたいと思ったらふらっと気軽に行ける場所にしています。始めたころは30名程度だった参加者も、地区懇談会で小学校の先生が呼びかけてくれたことで、親子での参加もしやすくなったのか、今では大人から子どもまで約100名程度の方にご参加いただいています。

さいさい子ども食堂では、昼食の提供だけでなく、地域の方々にご協力いただき、手づくりのおもちゃで遊んだり、囲碁を教えてもらったりと各々で好きな遊びをして過ごします。宿題をさせたり、参加を強制したりすることはなく、子どもたちにとって居心地の良い場所になればと思っています。

運営スタッフは地域の主婦の方々など学区の有志20人で、20代から60代まで幅広い年齢層の方々にご協力いただいています。メニューはメインだけ決めておいて、あとはその日提供いただいた食材を見て決定し、毎回100食程度用意しています。

折り紙を教わる子どもたち

## 今後の課題

元々この活動を始めたきっかけは、地域の中学生でした。この地域では、夜遅くまで公園で遊んでいたり、食事をとらずに学校へ行ったりしている子どもが多くいます。そんな子どもたちの居場所を作れないかと地域の大人たちと相談し、特別養護老人ホーム中野けんせいえんの地域交流スペースを借りて始めたのが、この〝さいさい子ども食堂〟です。

地域の中学生をきっかけに始めたこの活動ですが、名称を〝子ども〟食堂としたせいか、中学生だけでの参加者はあまりいないのが現状です。今後は、中学生だけでの参加もしやすいよう、土曜日の昼だけでなく、夜の部を増やすことなどを検討しています。

また、この度、岡山市より、おかやま協働まちづくり賞を受賞しました。これを機に、より一層、地域協働での食事の提供はもちろんのこと、居場所づくりに力を入れていきたいと思っています。学校のない土曜日に自宅で一人過ごすのではなく、さいさい子ども食堂へ来て、みんなで楽しく過ごしてもらえたらと思います。

## さいさい子ども食堂を訪れて…

取材当日はあいにくの雨でしたが、12時には60名ほどの方が来られ、最終的には準備していた100食分がなくなってしまうほど、多くの方々が訪れていました。

今回が3回目の参加だという子ども連れの女性は、「一度来たら、その後はまだかまだかと子どもが待ち遠しい様子で、いつも楽しみに来ています」と笑顔で話されていました。

昼食のあとは、友達同士集まってトランプやジェンガで遊んだり、おやつには、スタッフの1人が自宅に持っていた綿菓子メーカーが登場し、子どもたち自身で綿菓子をつくったりと、思い思いの楽しい時間を過ごしていました。

楽しく食事をする子どもたち

## 地域の人と人とをつなげる場として

町内会長や市議会議員など地域の方々が肩書など関係なく、多く参加されており、地域の福祉力がふんだんにつまった場となっているさいさい子ども食堂。子どもたちのためにお菓子を寄付しに来られる方や、「来月はさつまいもを持ってくるわ」と言って帰られる方、そのようなやり取りの中に人と人とのつながりや、地域の一体感を感じました。地域の人と人との関わりの希薄化が問題視されている中、中野けんせいえんの地域交流スペースは、地域の人と人とをつなげる交流の拠点であり、地域の方々にとって大切な場所となっています。

**【さいさい子ども食堂】**

◆**日時**：毎月第2土曜日
10時～14時（ランチは11時～）

◆**会場**：特別養護老人ホーム
中野けんせいえん
岡山市東区西大寺中野677-1

◆**問い合わせ**：TEL：050-5241-2309
Mail:saisai_kds@yahoo.co.jp

◆**参加費**：子ども無料
大人（16歳以上）300円
主に西大寺地域の子どもが対象

今回集まった食料品

# 「一歩ずつ支援を」
## ～「ものバンク」の取組～

### 真庭地域社会福祉法人連絡会「まにわささえ愛ネット」

今号では、真庭地域社会福祉法人連絡会「まにわささえ愛ネット」の「ものバンク」の取組について、会長の小泉さんと副会長の吉岡さんにお話を伺いました。

### まにわささえ愛ネットとは

真庭地域で社会福祉事業を実施する社会福祉法人が分野や立場を超えて相互に連携し、制度の狭間のニーズや複合的な課題に対して、地域が必要とする新たな福祉サービスの開発及び支援等、「地域における公益的な取組」を行い、社会福祉法人の使命と役割の向上を図るため、会員相互の連携・協働を促進することを目的に活動を行っているネットワークです。今年8月に設立し、現在15事業所が参画、真庭市社会福祉協議会が事務局を担っています。

### 最初の取組は「ものバンク」

真庭地域で、高齢・障害分野の全事業所が集まる場は、まにわささえ愛ネットがはじめてということもあり、何をどう取り組んでいけばよいのか模索する中、「とりあえず取り組んでみよう」とはじめたのが、9月から開始した「ものバンク」です。

「ものバンク」は、参画する社会福祉法人から物品や食料品を募り、真庭地域の生活に困っている方や購入する資金がない方に提供し、支えようという取組です。取組をはじめるにあたっては、ネットワーク組織で同様の取組（「フードドライブ・フードバンク」）を行っている「ふくしネットそうじゃ」の総社市社協の方にも話を伺いながら、準備を進めていきました。

まず4事業所に食料品の提供を呼びかけたところ、カップ麺やレトルト食品など、20品580個が集まりました。施設の職員に、「できる範囲でご協力お

小泉会長
（特別養護老人ホーム　千寿荘　荘長）

願いします」と伝えたところ、自宅から持ってきてくれる職員や、夜勤の夜食のストックから入れてくれる職員もいました。誰か一人が持ってくることで、他の方も気にして持ってきてくれることもありました。皆さんできる範囲で協力してくれています。

取組をはじめて10月中旬までに、3件依頼があり支援を行いました。集まった食料品の中から、その方の生活状況に合わせて、支援者と相談しながら提供しました。今食べるものに困っている方、お米はあるがおかずがない方など、状況は様々でした。支援件数自体はまだ多くありませんが、支援者からは「ものバンクがあることで、支援方法が一つ増えありがたい」という声もあがっています。皆さんに協力してもらい集めた物が、本当に困っている人の手に渡るよう支援をしたいと考えています。

## まず現場を知る

多くの方々の協力を得てはじまった「ものバンク」ですが、支援件数自体はまだ多くありません。支援対象者となる生活に困っている方はたくさんいると思いますが、ニーズが表面化することは多くありません。まずは現場を知ることから。広く連携を図りながら、潜在的ニーズを発掘し、繋げていくことが大切だと考えています。長い目で見て、半歩ずつでも取り組み、前に進んでいこうという思いで、現在活動を行っています。

慶光会　法人本部ニュース　号外

「ものバンク」へのご協力
ありがとうございました。

急な呼びかけにもかかわらず、下記物品が集まりました。
9月7日に「まにわささえ愛ネット」事務局である、真庭市社協さんへ届けてきました!!

デイセンターまにわ
ワークプレイスまにわ・支援センター
ワークス
慶光園

＊真庭地域にも「水道を止められた」「母子家庭で明日の食べるものもない」といった困窮事例があるとのこと。そのような人たちへの当座の支援として活用されます。
また、身近で困窮ケースを知っているという方は、情報をお寄せください。
【まにわささえ愛ネット　法人担当　吉岡博子】

吉岡副会長作成
「慶光会法人本部ニュース」

## 今後の展望について

会議の中で、家庭の事情でご飯をきちんと食べられていない子どものために「ものバンク」の繋がりを活かしたいという意見が出ていました。これから先のある子どもだからこそ、少しでも救えるなら救いたいという思いを皆さん持たれています。市役所の子育て支援課や民生委員・児童委員の協力を得て、地域の子どもの実情を把握していくとともに、子ども食堂のような取組にもつなげることができればと検討しています。

メンバーが把握しているニーズや地域課題を共有することで、まにわささえ愛ネットで何ができるのかを検討し、次につなげていきたいと考えています。私たちの取組が、地域の役に立てれば、困っている方の支えになればと、まにわささえ愛ネットは一歩ずつ取り組んでいます。

今回、取材をさせていただき、「一歩、半歩ずつでも前へ。」とお話しされていた会長の言葉が印象に残っています。会長をはじめとする皆さんが、分野や種別を越えて、今後の展開について長い目で、前向きに取り組んでいる様子が伝わりました。

吉岡副会長
（(福)慶光会　業務執行理事）

【問い合わせ先】
**真庭地域社会福祉法人連絡会**
**「まにわささえ愛ネット」**
事務局：真庭市社会福祉協議会
真庭市久世2928
TEL　0867-42-1005

木村施設長
「あたたかい環境づくりも大切。」

# 「就労支援が人材確保と地域支援に」

## ～わーく・わーく事業（中間就労支援）～

### 社会福祉法人　光風福祉会
### 特別養護老人ホーム　蛍流荘

今号では、美作お助け隊（美作市内の社会福祉法人等連絡協議会）で取り組んでいる「わーく・わーく事業」について、社会福祉法人光風福祉会　特別養護老人ホーム蛍流荘　施設長の木村さんにお話を伺いました。

### 美作お助け隊（市内社会福祉法人等連絡協議会）とは

「美作お助け隊」は、制度の狭間の問題や複合的な課題に対して、美作市内の12法人14事業所が分野や立場を超えて相互に連携し、地域における公益的な取組を行っているネットワーク組織です。

### 「わーく・わーく事業」取組のきっかけとはじまり

「わーく・わーく事業」は、生活困窮者等で就労訓練が必要な方を、法人が就労支援事業者として受け入れ、就労の場の提供と支援を行う事業です。

現在、40代の男性がわーく・わーく事業で、蛍流荘に来られています。蛍流荘が美作お助け隊で活動している中で、1年程前に就労支援の対象となる方がいると紹介を受け、面談を経て、仕事体験をしていただくようになりました。

ただでさえ職員不足の施設なので、来ていただけるのは大歓迎。日頃、手が回りにくい施設内の清掃などをお願いできれば助かるし、できれば介護職員として働いてもらえればとの思いもありました。

しかし、初対面での彼は、伏し目がちで言葉数も少なく、かなり不安やストレスを抱えているのではないかと思いました。そして、いざスタート。

### 受け入れの環境づくり

今までの生活や職歴の中でトラブルもあったと聞いていたので、まずは一人でできる仕事を体験してもらいました。具体的には、ベランダや階段等の共用部の清掃、送迎車の洗車。寒い中一人で黙々と作業をこなす姿を見て、真面目で仕事が早いという印象を受けました。「でき

ました。次は何しましょうか？」と言われビックリもしました。仕事が終わった後は、お決まりで少し世間話をするのですが、人懐っこく、いつも身の上話をしてくれました。

子どもの頃いじめにあっていたことや、職場でのトラブルがきっかけで働けず家に引きこもってしまい、気づけば借金の山。病気の母を抱え、自分ではどうすることもできず、生きることにさえもなげやりになってしまった。接する程に、彼の闇の深さを感じると同時に、屈託なく何でも正直に話してくれる彼に親しみも覚えました。

一人でできる仕事の次は、職員と2人1組で窓ガラスや居室の清掃、さらにユニット内でのチーム作業、食事の配膳、後片付けへと内容を広げていきました。

利用者や複数の職員間でやっていけるのか心配はありましたが、優しいタイプの職員をサポートにつけながら、こちらからも「どう？いける？できるやん。」と常に前向きな声をかけ、彼の気持ちが切れないよう、受け入れの環境づくりに留意しました。

## 職員への働きかけ・意識統一 お互いを認め合い、助け合う心

担当職員には彼の事情を話し、彼が困らないようにと配慮をお願いしていましたが、利用者が第一の忙しい現場では、時に職員間のコミュニケーション不足もあり、些細なトラブルになることもありました。

しかし、仕事の中で困ったことがあればお互いに助け合うことは職員としての基本であり、それは彼に関わらず、他の職員でも同じこと、「隣で困っている人がいたら助けよう」という意識が職場全体に行き渡るよう、職員には日頃から働きかけています。

実際、自施設には心の病や障がいがありながら働いている職員もいるので、誰が当事者で誰がサポート役ということでなく、全員がお互いを認め合い、サポートし合うという風土が職場に浸透していけばと願っています。

そうした一進一退の取組のなかで、はじめは「介護はやったことないから、どうかなぁ、よくわかりません。」と言っていた彼も、徐々に「大丈夫ですよ、できますよ。」という、自信も感じられる言葉に変わってきました。

現在、平日17時～19時、土日は日中働いている。
優しく真面目で、利用者にも職員にも人気。

## 今後の取組に向けて

彼の前にも就職支援の対象となる方を受け入れましたが、うまくいかず、「また来られるようになったら話しにおいで。」と声をかけ、やんわりと仕事をあきらめてもらったこともありました。うまくいくケースばかりではありません。

しかし、施設は人手不足で、求人を出しても問い合わせが1件もない、という実情もあります。就職困難者を受け入れ戦力化していくのも、施設運営には必要と考えています。その取組が「地域における公益的な取組」につながり、地域における制度の狭間の問題解決に合致するのであれば、双方にとってメリットがあると考えています。

美作お助け隊がなければ、こういった取組はできていなかったかもしれません。みんなで共有、協働して問題解決をする場があるということは、社会福祉法人にとっても地域にとっても、大切なことだと思います。

【問い合わせ先】
社会福祉法人 光風福祉会
特別養護老人ホーム 蛍流荘
美作市湯郷903
TEL 0868-72-6660

現場からの発信

# 「子どもたちの居場所」
## ～子どもの学習支援・居場所づくり事業～

宿題や受験勉強に取り組む子どもたち

年末はみんなでおもちつき

**美作市社会福祉協議会**

今号では、美作市社会福祉協議会が取り組んでいる「子どもの学習支援・居場所づくり事業」について、お話を伺いました。

### 「子どもの学習支援・居場所づくり事業」とは

地域には、十分な食事がとれていない子どもや、夜一人で過ごしている子ども、昼夜逆転の生活をしている子ども、入浴や洗濯ができていない子ども、家庭環境からまわりとの関係がうまく持てず通学できない子どもなど、寂しさやしんどさを抱えている子どもたちもいます。

「子どもの学習支援・居場所づくり事業」は、生活困窮世帯や家庭に問題を抱える中学生とその兄弟姉妹を対象とし、居場所の提供や学びの支援等を通して、子どもたちが安心して生活できるよう寄り添い支援するものです。

美作市社協では、デイサービスセンターでのボランティア活動や、おやつ作り、センターでの勉強などを通して、学習支援や居場所づくりにつなげています。

ボランティア活動を通してのふれあいは、利用者にとっての喜びにつながるとともに、子どもたちにとっても自分を受け入れてもらい、「ありがとう」「また来てね」などの言葉をかけてもらうことによって、自分が必要とされている喜び（自己肯定感）を感じることができます。

また、入浴や洗濯ができていない子どもには、事業所の洗濯機を使用し、家庭でも洗濯ができるようにしたり、事業所の浴室でシャワーを使用してもらったりします。利用者へのおやつ作りやおにぎり作りは、簡単な自炊の練習になるとともに、自分たちで作った分を持ち帰り、夕食や朝食の足りない部分を補ってもらっています。

**1日のタイムスケジュール（例）**

| | |
|---|---|
| 10：00 | 送迎による登所 |
| 10：30 | 宿題（学習支援） |
| 11：30 | デイサービスで体操・歌・昼食準備 |
| 12：00 | 昼食 |
| 12：30 | 昼食片付け |
| 13：00 | 自由時間 |
| 14：00 | おやつ作り・レクリエーション |
| 15：15 | 入浴・洗濯・おにぎり作り |
| 17：00 | 帰宅（送迎） |

学習支援にあたっては、美作市社協の会議室を利用し、落ち着いた場所で勉強できる環境づくりをつくるとともに、地域ボランティアや美作大学の学生等にも協力してもらいました。大学生は学習面での支援だけでなく、子どもたちにとっての身近なモデルにもなっているようです。

## 子どもたちを見守り、支える
### ～社協や行政、教育機関、地域の方などみんなで支援を～

作東中学校　浦島教頭先生

■浦島教頭先生　学校は地域や保護者に支えられています。経済的に厳しい家庭もありますが、子どもたちは明るく前向き。ここで温かく迎えてもらえて、がんばれているのではないでしょうか。居場所があるというのは大切です。

■赤堀さん　子どもたちは素直で、本当にいい子たちばかり。はじめは言葉数も少なかったけれど、今では道端で会っても話しかけてくれるようになりました。見守っているよと伝えたい。家が近いので、ちょくちょくのぞいたり、差し入れをしたりすることもあります。

主任児童委員　赤堀さん

■寺本さん　みんながいろいろな形で支援しています。赤堀さんのように温かく話しかけてくださる方、見に来てくださる学校の先生方、イベントなどを支援してくださる地域の方、受入施設の職員。1日でもここへ来られたら、きっかけになると思います。子どもたちにも「いつでも来てくれたらいいよ」と伝えています。他の地区にも広げていきたいです。

美作市社協　寺本さん

## 今後に向けて

この事業は、平成28年度に美作市社協が試行実施したことからはじまり、今後は美作お助け隊（美作市内の社会福祉法人等連絡協議会）の実施事業としてメニュー化を検討しています。美作お助け隊の参加法人の施設にも支援に関わっていただければ、他の地域で場所を確保できたり、活動内容が広がったり、送迎等で施設の資源を活用したりすることもできるかもしれません。

しかし、事業の対象となる子どもたちを誘いだし、きっかけをつくることは容易ではありません。子どもの貧困世帯には複合的な課題が潜在化しており、子どもの支援から世帯全体の支援につなげていくことも必要です。保護者自身も周囲に助けを求められない状況に陥っている可能性があり、事業の周知も課題の一つです。

子どもたちは、支えられる側であるだけでなく、支える側でもあります。子どもたちの笑顔と未来が輝く、支え合いの地域づくりを目指しています。

【問い合わせ先】
**美作市社会福祉協議会**
美作市江見280
作東長寿センター内
TEL　0868-75-2622

# 市町村域ごとの社会福祉法人等の地域ネットワーク

岡山ささえ愛センターでは、市町村域の社会福祉法人等のネットワークを基盤として、地域の生活課題の解決に向けて、住民の理解や参画のもと地域で解決できる活動や仕組みづくりを推進しています。生活の拠りどころである「地域」を基盤とした人と人とのつながりづくりが重要です。社会福祉法人も地域社会の一員として、住民や他の法人とともに地域づくりに取り組むことが期待されています。

## 津山市社会福祉施設連絡会

設立　1994年5月11日（※）
※地域における公益的取組の事業の位置づけは2017年10月10日より。

主な取組

- **生活応援部会**
  社協実施の生活困窮世帯の自立支援（緊急一時食料支援等）の協働について検討・試行
- **子育て応援サポート部会**
  社協実施の地域子育て拠点事業との協働について検討・試行

## 井原おもいやりネットワーク

設立　2017年2月6日

主な取組

- **ひきこもり支援事業への協力**
- **フードドライブ、フードバンク事業**

## 高梁市社会福祉法人連絡会

設立　2017年4月11日

主な取組

- **ライフサポート事業**
  食料等を持ち寄り生活困窮者へ支援
- **お仕事体験事業**
  社会参加・就労体験の機会の提供
- **避難場所提供事業**
  災害時の要支援者への一時避難場所の提供

## 笠岡市社会福祉法人連絡会

設立　2019年5月31日

取組

- **貧困対策**
  フードドライブ等の拡大運用
- **施設機能の社会化**
  相談窓口の開設検討
- **災害時の連携**

## ふくしネットそうじゃ
### 総社市社会福祉法人社会貢献活動推進協議会

設立　2017年7月1日

主な取組

- **くらし応援事業**
  フードドライブやフードバンク、日用品の収集等
- **しごと応援事業**
  ひきこもりの方などのボランティア体験の受入れ
- **安心すまい応援事業**
  緊急一時的な生活の場の提供

## 新見市社会福祉法人連絡協議会

設立　2019年7月18日

主な取組

- **生活困窮者に対する支援**
- **災害時における避難場所の提供**

備考

令和元年9月集中豪雨災害における新見市災害ボランティアセンター活動支援

## 赤磐市社会福祉法人連絡会

設立　2018年5月25日

主な取組

- **くらしサポート事業**
  食料支援（フードドライブ）活動等
- **しごとサポート事業**
  「あかいワーク」
  職業訓練・体験の受入れ
- **安心すまいサポート事業**
  緊急一時の住まいの受入れ

## まにわささえ愛ネット
### 真庭地域社会福祉法人連絡会

設立　2018年8月22日

主な取組

- **ものバンク**
  食料品や物品（家電等）を持ち寄り支援
- **地域食堂の開催**
  子どもからお年寄りまで、食事を通じたさまざまな世代の交流・居場所づくり

備考　真庭市・新庄村

## 美作お助け隊
### 美作市内の社会福祉法人等連絡協議会

設立　2017年6月1日

主な取組

- **カツ弁配達事業**
  生活困窮者等への配食サービス
- **わーく・わーく事業**
  中間的就労の受入れ
- **お家さわやか事業**
  片付けの必要な世帯の清掃作業の支援
- **子どもの学習支援・居場所づくり事業**

## 浅口市社会福祉法人連絡会
## 「かけはし」

設立　2020年1月31日

取組

- **フードドライブ**
- **啓発事業**
  イベント等に相談ブースを設けるなど

## ほっとけんネット早島
### （早島町社会福祉法人連絡協議会）

設立　2019年11月22日

主な取組　・**法人のもつ社会資源パンフレットの作成**

---

## 県内の社会福祉法人ネットワーク設置状況

▶県内20市町において設置及び検討中です。（県社協把握R2年1月末時点）

### 【ネットワーク設置済／11圏域】※H30.3末時点：5市

| 組　織　名 | 設立日 |
|---|---|
| ●津山市社会福祉施設連絡会 | H29.10.10* |
| ●井原おもいやりネットワーク | H29.2.6 |
| ●ふくしネットそうじゃ（総社市社会貢献活動推進協議会） | H29.7.1 |
| ●笠岡市社会福祉法人連絡会 | R1.5.23 |
| ●高梁市社会福祉法人連絡会 | H29.4.11 |
| ●新見市社会福祉法人連絡協議会 | R1.7.18 |
| ● 赤磐市社会福祉法人連絡会 | H30.5.25 |
| ●まにわささえ愛ネット（真庭地域社会福祉法人連絡会） | H30.8.22 |
| ●美作お助け隊（美作市内社会福祉法人等連絡協議会） | H29.6.1 |
| ●浅口市社会福祉法人連絡会「かけはし」 | R2.1.31 |
| ●ほっとけんネット早島（早島町社会福祉法人連絡協議会） | R1.11.22 |

### 【現在検討中／5市4町】※H30.3末時点：5市1町

情報交換会や準備会 等の開催

- 岡山市社協
- 倉敷市社協
- 玉野市社協
- 瀬戸内市社協
- 矢掛町社協 (R2年3月予定)
- 勝央町社協
- 久米南町社協
- 吉備中央町社協

実施職員研修会・局内検討会等　実施

（予定）備前市社協

※会は以前よりあるが、事業に「地域公益活動に関する取組み」を位置づけた会則の改定日としている。

# 岡山ささえ愛センターについて（岡山県地域公益活動推進センター）

## 『オール岡山』での取組みに向けて

岡山ささえ愛センターは、社会福祉法人が分野や立場を超えてつながり、「オール岡山」で地域公益活動を展開していく全体機運を高めることを目的とした県域の推進組織です。

県内の各種別協議会や社会福祉協議会を構成団体とし、本センターの趣旨に賛同する社会福祉法人により構成しています。

### 岡山ささえ愛センター【構成団体】

- 岡山県社会福祉協議会
- 岡山県社会福祉法人経営者協議会
- 岡山県老人福祉施設協議会
- 岡山県障害福祉施設等協議会
- 岡山県保育協議会
- 岡山県児童養護施設等協議会
- 岡山県保護施設協議会
- 岡山県内市町村社会福祉協議会
- 岡山県民生委員児童委員協議会
- 岡山県共同募金会

会員はホームページをご覧ください。

## オール岡山での取組促進　主要５つの事業

中期事業計画 ５年計画（2018-2022）

## 『誰もが住み慣れた地域でいきいきと暮らせる地域社会』の実現に向けて

私たちは「制度の狭間の問題」に向き合って、地域のニーズに基づく地域公益活動の仕組みづくり・支援を行ない、各社会福祉法人並びに各市町村域のネットワークによる主体的な取組の創意・発意の輪を広げています。

まずは、市町村域で取り組むネットワークづくりの支援を重点（14ページ）に、取組モデルの開発や担当職員等の人材育成等のサポート、積極的な見える化をすすめます。

モデル事業では、制度の狭間の課題に対して、取組み意向のある会員を指定し、研究・開発助成を行っています。

### これまでのモデルテーマ

◆社会福祉施設と地域が連携した、「こどもの居場所（学びの支援）づくり」

◆相談支援機関等と連携した、専門性を生かした「働きづらさを抱える方のための働く場づくり」

平成31年度
社会福祉施設総合損害補償

# しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます
ふくしの保険 検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の
**事故・紛争円満解決のために！**

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

## プラン1 施設業務の補償（賠償責任保険、動産総合保険）

### 1 基本補償（賠償・見舞）

保険期間1年

▶保険金額

| | | 基本補償（A型） | 見舞費用付補償（B型） |
|---|---|---|---|
| 賠償事故 | 対人賠償（1名・1事故） | 2億円・10億円 | 2億円・10億円 |
| | 対物賠償（1事故） | 2,000万円 | 2,000万円 |
| | 受託・管理財物賠償（期間中） | 200万円 | 200万円 |
| | うち現金支払限度額（期間中） | 20万円 | 20万円 |
| | 人格権侵害（期間中） | 1,000万円 | 1,000万円 |
| | 身体・財物の損壊を伴わない経済的損失（期間中） | 1,000万円 | 1,000万円 |
| | 徘徊時賠償（期間中） | 2,000万円 | 2,000万円 |
| お見舞い等 | 事故対応特別費用（期間中） | 500万円 | 500万円 |
| | 被害者対応費用（1名につき） | 1事故10万円限度 | 1事故10万円限度 |
| | 傷害見舞費用 | | 死亡時 100万円<br>入院時 1.5~7万円<br>通院時 1~3.5万円 |

▶年額保険料（掛金）

| | 定員 | 基本補償（A型） |
|---|---|---|
| 基本補償（A型） | 1~50名 | 35,000~61,460円 |
| | 51~100名 | 68,270~97,000円 |
| | 100名以降1名~10名増ごと | 1,500円 |
| 見舞費用付補償（B型） | 基本補償（A型）保険料 ＋ | 【見舞費用加算】定員1名あたり 入所：1,300円 通所：1,390円 |

◆ クレーム対応サポート補償（プラン1-①オプション4） 改定

## プラン2 施設利用者の補償

## プラン3 施設職員の補償 改定

## プラン4 社会福祉法人役員等の補償

スケールメリットを活かした充実した補償と割安な保険料です。

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約（賠償責任保険、医師賠償責任保険、個人情報取扱事業者賠償責任保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険）です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会
〈引受幹事保険会社〉損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL：03（3349）5137
受付時間：平日の9:00～17:00（土日・祝日、12/31～1/3を除きます。）

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03（3581）4667 FAX:03（3581）4763
受付時間：平日の9:30～17:30（12/29～1/3を除きます。）

〈SJNK18-12811 2018.12.28 作成〉

---

社会福祉法人による地域公益活動事例集　vol.2


【発行年月日】
令和２年３月

【発行者】
岡山ささえ愛センター（岡山県地域公益活動推進センター）
社会福祉法人 岡山県社会福祉協議会
〒700-0807　岡山市北区南方２丁目13－１
TEL　086－226－2835

【印刷】
株式会社 セイキ

じぶんの町を良くするしくみ。
赤い羽根共同募金

本冊子は、岡山県共同募金配分金により
作成しています。